



15:33 さて、十二時になったとき、闇が全地をおおい、午後三時まで続いた。

15:34 そして三時に、イエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタン。」訳すと「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

15:35 そばに立っていた人たちの何人かがこれを聞いて言った。「ほら、エリヤを呼んでいる。」

15:36 すると一人が駆け寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒に付け、「待て。エリヤが降ろしに来るか見てみよう」と言って、イエスに飲ませようとした。

15:37 しかし、イエスは大声をあげて、息を引き取られた。

15:38 すると、神殿の幕が上から下まで真つ二つに裂けた。

15:39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。「この方は本当に神の子であつた。」

15:40 女たちも遠くから見えていたが、その中には、マグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、サロメがいた。

15:41 イエスがガリラヤにおられたときに、イエスに従って仕えていた人たちであつた。このほかにも、イエスと一緒にエルサレムに上つて来た女たちがたくさんいた。

15:42 さて、すでに夕方になつていった。その日は備え日、すなわち安息日の前日であつたので、

15:43 アリマタヤ出身のヨセフは、勇気を出

してピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願ひ出た。ヨセフは有力な議員で、自らも神の国を待ち望んでいた。

15:44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いた。そして百人隊長を呼び、イエスがすでに死んだのかどうか尋ねた。

15:45 百人隊長に確認すると、ピラトはイエスの遺体をヨセフに下げ渡した。

15:46 ヨセフは亜麻布を買い、イエスを降ろして亜麻布で包み、岩を掘って造った墓に納めた。そして、墓の入り口には石を転がしておいた。

15:47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤは、イエスがどこに納められるか、よく見えていた。

「どうしてわたしをお見捨てになつたのですか」ということばは、詩篇22篇にありますが、イエスはダビデがご自分の苦難のひな型であることを知つておられたので、このみことばを口にしたのでしよう。イエスが旧約の預言・約束としてご自身が十字架に架かり、救いを成し遂げようとしておられることがわかります。

「大声をあげて息を引き取られた」という記述から、その苦しみが極みに達していたことが分ります。そしてイエス様の肉体は完全に死んだので、そのとき「神殿の幕が上から下まで真つ二つに裂けた」とあります。この幕は聖なる神と人間とを分ける幕でしたが、人類の罪をイエス様が負つてくださったことにより、聖なる神に人間が近づけるようになったことを表します。どんなときも、どんな魂の状態でも、主に近づきます。そのための十字架の御苦しみだつたのですから。イエス様の十字架のそばには様々な人々がおり、女性もいました。当時女性にはさげすまれていて、人数には入れられなかつたのですが、神様は女性をも尊重し、男女に優劣はつけてはおられません。

ここでも多くの女性達が危険を顧みず勇気を持ち、イエス様の側近くで見守つていました。それはイエス様のように人間からは尊重されなれないようでも、主から信仰が与えられたならば、強よめられずばらしい働きをすることができます。主と主への信仰に可能性があるのです。

アリマタヤのヨセフは、サンヘドリン(イスラエルの最高決定機関であり最高裁判所)の有力な議員でしたから、イエス様が議会で死への尋問を受けておられたときも彼はそこにいたはずで、そして今十字架のイエス様を見たとときに彼りました。イエスの子であることとを悟ることは、その仲間であることとを表明するのですから、その身に危険が及びますし、また議員としての地位もなくなることとまでした。

そしてこのことがイエス様の復活を明確な事実としてしましました。墓からよみがえり、墓があつたからその記録が残つたのであり、復活が明確になつたのです。ことを知つたなら、またイエスが神であることにしたなら、勇気を持つてその思いを新たにしよう。主のためにできることをしましよう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？